

- 2-3 世界で羽ばたく「熱気人」
- 4-5 新春対談  
元気なまちへ力を“連結”
- 6-8 街の話題／コラム／お知らせ

## ま ち を 拓 く 新 年 の 幕 開 け

圏央道から昇り始めた太陽が、穏やかに流れる相模川に温かな光を差し込みます。光を浴びた水面が美しい輝きを放ち、乗客を乗せた鉄道を見送ります。

厚木のまちとともに歴史を紡いできた小田急線は、昨年開通90年を迎え、今年はいよいよ複々線化が完了します。さらに道路では、新東名高速道路・厚木南インターチェンジから海老名ジャンクションまでが開通し、圏央道に接続。厚木の交通網がさらに飛躍します。

2018年、厚木市は交通の要衝として進化を遂げ、まちをひらいていきます。



# 世界で羽ばたく熱気人

あつぎびと

もつと速く、もつと前へ



私たちのまちには、熱い志を持ち、夢に向かって進むたくさんの「熱気人」がいます。今回は、世界を舞台に羽ばたく若き熱気人たちに、これまで歩んできた道のりや新しい年への抱負を聞きました。

ロボットに命を吹き込む



## チアリーディング ATSUGI ALL☆STARS



「レッツゴー、AAS!!」。元気いっぱいの掛け声とともに、音楽に合わせ宙返りや組み体操など次々と躍動感あふれる動きを展開するチアリーディングチーム「ATSUGI ALL☆STARS」。未就学児から中学生まで85人が所属し、大会や「あつぎまつり」など市内のイベントで、観客を魅了する演技を目指して練習を重ねています。昨年秋には、アジア大会や関東大会の実績から世界選手権の日本代表に選ばれ、見事、小学生と中学生の2チームがそれぞれの部門で優勝に輝きました。中学生チームのキャプテンを務める播磨絢香さんは、「ずっと出場を目指してきた大会だったので、力を合わせて結果を出せたのがうれしい」と喜びます。チームの強みは自主性と絆。上級生が下級生に積極的に技術を教える他、自分たちで足りない部分を指摘し合ったり、反省点を話し合ったりと、一人一人がチームのために主体的に取り組めます。「先輩たちの演技に憧れて頑張っている」「練習はきついけれど、みんなで励まし合ってつくり上げる分、達成感が大きく楽しい」と話すメンバーたち。年齢に関わらず日頃から一緒に遊ぶ仲の良さで、抜群のチームワークを築いています。指導に当たる遠藤志津枝さんは、「競技を通して、どんな役割や立場にも意味があることを学び、社会で生かしてもらえれば」と、子どもたちの将来を見据えます。舞台上上がるたび、技術面も内面も大きく成長していく少女たち。その姿は、今年もたくさんの人たちに笑顔と元気を届けます。

平成19年結成。29年5月「第4回アジアジュニア・チアリーディング・チャンピオンシップ」2部門優勝、8月「JAPAN CUP2017」小学校部門優勝、11月「第9回チアリーディング世界選手権大会」2部門優勝など。

## BMX(バイシクル モトクロス) 山口 雛さん



スタートの合図とともにガチャンと音を立ててゲートが開くと、自転車に乗った8人の選手が一斉に坂を駆け降りていきます。勢いよく飛び出したのは山口雛さん。昨年7月、アメリカで開催されたBMXの世界選手権に出場した女性レーサーです。BMXは、専用の自転車未舗装のコースを走り順位を争う競技です。トップ選手のスピードは時速60kmにも達し、大小さまざまなこぶやすり鉢状のカーブはスリリングな展開が期待される一方、危険も伴います。アメリカやヨーロッパで盛んで、オリンピック種目にも採用されています。9歳からレースに出場する山口さんは、「整地されたコースを走るより、ゴールした時の満足感が大きい」と、BMXならではの魅力を語ります。小柄な山口さんが得意とするのは、スタートダッシュ。「他の選手より少しでも前に出られれば、接触せず自分なりのコース取りができる」と、独自のレーススタイルを貫きます。その成果もあって、着々と戦績を伸ばした山口さんは、念願の世界選手権への切符を手に入れました。集まった約5千人の観衆を前に、「今までに無い緊張で体が震えたのを覚えている」と当時の心境を打ち明けます。大会では、予選を勝ち上がったものの、本戦では得意のスタートダッシュが決まらず無念の敗退。「世界との差を感じたけれど、いい経験になった」と前向きに振り返ります。「あの時の感動と興奮は忘れられない」。そう笑顔を見せる山口さんは、再び同じ感動を味わうために、今日も練習に励みます。

ピーエムエックス

平成12年生まれ。森の里在住。29年7月「全日本BMX選手権大会」女子15歳以上5位。7月「UCI BMX世界選手権アメリカ大会チャレンジクラス女子17-24歳カテゴリー」出場。11月「2017ひたちなかBMX国際大会」女子15歳以上6位。

## ロボットサッカー RV-Infinity



「今だ」「そこでシュート」。小さくつぶやきながらゴールの脇でロボットの動きを見つめるのは、東京工芸大学の研究チーム「RV-Infinity」のメンバーです。リモコン操作を用いず、事前に組み込まれたプログラムを基に人のように自ら判断し、サッカーをする自律移動ロボットを研究・開発しています。1チーム5台で実施される試合では、パスやドリブル、シュートなど、人間さながらのプレーを展開。素早い動きと激しいぶつかり合いが見どころです。チームは昨年、日本大会で初優勝し、念願の世界大会に出場しました。しかしながら、中国やオランダなど、世界トップレベルのチームを相手に力及ばず、7チーム中6位に終わり予選で敗退。リーダーの吉田哲也さんは、「スピード、パワー、技術、どれを取っても相手が上だった」と悔しさをにじませます。競技ロボットは、広い視野(カメラ)と強い肉体(機体の強さ・重さ)、機敏な動き(駆動性能)、何よりそれらを連動させる頭脳(プログラム)と、求められる能力はサッカー選手と同じ。これらを高めるのが、製作者の開発力です。「試行錯誤して思い通りに動いたときが最高の瞬間」と熱く語るメンバーたち。「負けず嫌いなのがチームの持ち味。今回の敗戦を糧に、世界に負けないロボットを作りたい」と目標を高く掲げます。自律移動ロボットの技術は、自動車の自動操縦など、生活に身近な場面でも期待が寄せられています。ロボットが秘める無限の可能性を信じ、今日もメンバーたちは一丸となって研究に熱を込めます。

東京工芸大学の研究チーム、部員数15人。平成20年結成。29年5月に国際的なロボット競技大会「ロボカップ」の日本大会で初優勝。7月の世界大会で6位入賞。大学で学ぶ知識を生かし、世界に負けないロボットづくりに励む。

## 野球 井上 大成さん



大会1号、3ランホームラン。平成29年9月1日、カナダで開かれた18歳以下の野球世界大会初戦。8番セカンドで出場した井上大成さんが7回に放った打球は、一直線にライトスタンドへと吸い込まれていきました。井上さんの活躍もあり、チームは大会で銅メダルを獲得。「一流の選手とプレーして、刺激にも自信にもなった」。初めて立った世界の舞台を、そう振り返ります。父親の影響で野球を始め、現在は都内の名門校に通う井上さん。しかし高校では、同じように競技に打ち込んできた仲間たちの中で、試合に出られず苦しむ時期もありました。それでも「最後に結果を出すのは、やるべき事を積み重ねた人間だ」と信じて、トレーニングや食事で体重を10kg以上増やし、腰が痛くなるほど練習を重ねるなど、努力を惜しみませんでした。そのかいあって、2年の夏には「壁を一つ越えた」と感じるほど打球が飛ぶようになり、チームの主力へと成長しました。昨年春には、夢だった甲子園の舞台に出場。惜しくも初戦で敗退しましたが、ファインプレーをした時に満員のスタンドから沸く地響きのような歓声など、大舞台ならではの熱気を肌で感じ、胸がいっぱいになりました。今年、大学へ進学する転機の間。「いつかプロになるため、新たなチームでもたくさん出場機会を得られるよう、走攻守全てを極めなければ」と気を引き締めます。自分に厳しい一方で、「周りから応援してもらえる、愛される選手になりたい」と話す井上さん。その瞳は、強さと優しさをたたえ、生き生きと輝いています。

© 高校野球ドットコム

# 2018年 新たに進む、変わる

## 厚木市の都市基盤整備が進む

### ☑ 本厚木駅南口地区市街地再開発事業

魅力ある本厚木駅周辺の顔づくりを目指して、南口の再開発事業が本格的に始まります。2月には既存ビルの解体工事が終了し、平成32年の完成を目指します。



◎市街地整備課 ☎225-2851

### ☑ 酒井土地区画整理事業

東名高速道路厚木インターチェンジ・新東名高速道路厚木南インターチェンジから近く、各地への良好な交通網を持つ酒井地区。新たな産業拠点の創出を目的に、約27%の整備を進めます。



◎まちづくり推進課 ☎225-2837

### ☑ 森の里東土地区画整理事業

下古沢・上古沢・愛名・森の里青山地区で実施している約68%の土地区画整理事業。昨年はA工区が完成し、今後は32年度にB工区、35年度にC工区の完成を目指して工事が進められています。



◎森の里拠点整備事務所 ☎225-2860

## 小田急の通勤が変わる 3月17日～

(平日上り方向代々木上原着 6時～9時30分)

### ☑ 都心へ直行

東京メトロ千代田線に直通する「通勤準急」が新設されます。



### ☑ 混雑が緩和

通勤・通学時に混雑する時間帯の列車の運転本数が、27本から36本に増加。本厚木駅を始発とする「通勤準急」や「急行」も1本ずつ増え、計8本が運行されます。

### ☑ 所要時間が短縮

朝の通勤・通学時の本厚木駅から新宿駅までの所要時間が約10分短縮されます。

### ☑ 座って快適通勤

本厚木駅に停車する朝の通勤特急ロマンスカー「モーニングウェイ号」「メトロモーニングウェイ号」を計7本(4本増便)運転します。



3月から運行を開始する特急ロマンスカー新型車両「GSE」

星野 晃司さん

昭和30年厚木生まれ。厚木高等学校、早稲田大学卒業後、昭和53年に小田急電鉄入社。平成29年に社長就任。「快適・便利・速い」という小田急のイメージづくりに取り組んでいる。



## 新春対談

# 元気なまちへ力を“連結”

### 小田急電鉄社長 星野 晃司さん × 厚木市長 小林 常良



厚木と首都圏、箱根を結ぶ小田急小田原線。今回の対談は、開業から市の発展を大きく支えてきた小田急電鉄株式会社(以下小田急)の星野晃司社長を迎え、市と小田急のこれまでの歩みを振り返りながら、厚木の将来像などへの思いを語り合いました。



通勤・通学で多くの人利用する本厚木駅北口改札



愛甲石田駅で試験的に設置された昇降バー式ホーム柵

### ■ 駅を便利で快適に

**市長** 昨年、小田急小田原線が開通して90周年を迎えられましたね。おめでとうございます。

**星野** ありがとうございます。昭和2年4月1日、前身である「小田原急行鉄道」が新宿と小田原間で運行したのが始まりです。

**市長** 本厚木駅も開業当初からある

### ■ 自然と都市が融和したまち

**市長** 早速ですが、星野さんは厚木市のご出身ですよね。

**星野** はい。小・中学校、高校と市内の学校に通っていました。当時の友人も市内にたくさんいます。住み慣れた厚木は、私にとって非常に大事な「ふるさと」であり、心のよりどころでもあります。

**市長** 星野さんが感じる厚木の魅力とは、どんなところでしょうか。

**星野** 豊かな自然と温泉などがある一方で、本厚木駅を中心としたにぎやかな市街地もあります。自然と都市がうまく融和しているところが一番の魅力ではないでしょうか。

**市長** そうですね。相模川をはじめ七沢や飯山の温泉は、一年を通してたくさんの方々が訪れています。さらに市内には、大手企業に加え五つの大学もあり、人が往来する条件がそろっています。

**星野** 本厚木駅は、近年利用者が増加しており、1日平均乗降客数は約15万人。小田急全線では第6位で、乗り換えがない私鉄の駅としては全国第1位です。

**市長** 他に乗り換える駅がないというところは、駅を降りた人のほとんどが市内を訪れているということですね。たくさんの方が来ることで活力が生まれ、さらなるまちの活性化につながっていくものと考えています。

**市長** 明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。平成30年、東京五輪まであと2年となりました。日本全体がこの一大イベントに向けて大きく進んでいく中、本市では本厚木駅南口の再開発ビルの着工、厚木南インターチェンジの開通、新たな産業拠点となる酒井土地区画整理事業の組合発足など、将来に向けたまちづくりが動き出します。

**星野** よろしくお願います。そこで今回は、私たち市民にとって大切な移動手段である小田急から、星野晃司社長をお招きし、今後の展望や本市との関わりなどについてお話を伺いたいと思います。星野さん、よろしくお願います。

### ■ 2年後の東京五輪に向けて

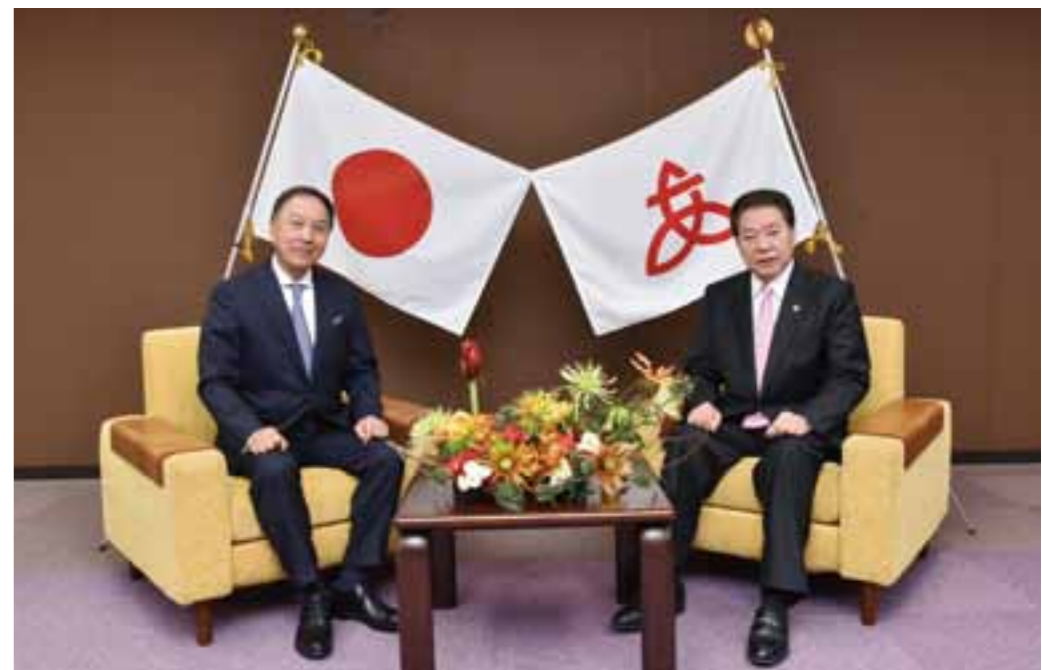
**市長** 市の顔ともいえる駅舎のリニューアルには感謝しています。2年後の東京五輪に向け、ますます多くの方にお越しいただきたいと考えています。本市はニュージラード(NZ)のホストタウンとして、NZの文化を勉強する授業を学校で取り入れたり、NZ人によるラグビー教室を開催したり、さまざまな事業を通じてNZとの交流を深めています。全国的に東京五輪への機運が高まっている中、小田急沿線の外国人旅行者は増加しているのではないかと。

**星野** 新宿と小田原にある小田急外国人旅行センターでは、28年度に計28万人だった外国人旅行者が、29年度はそれを上回る水準となるなど、近年大きく増加しています。

**市長** そうですか。主にごどのような目的で訪れるのでしょうか。

**星野** これまで外国人旅行者たちは、箱根や江の島、鎌倉といった観光地を中心にリピーター客が増えています。観光地だけでなく買い物や食といった、普段は日本人でにぎわう場所を訪れるなど、ニーズが多様化しているなど感じます。

**市長** なるほど。本市でも、モニタリングを企画して外国人から感想や提案を聞くなど、外国人目線の新たな



魅力の発掘に取り組んでいます。都心から程近い本市としても、東京五輪に向けた観光政策がより一層重要になってきます。

**星野** 多くの外国人旅行者を誘致することは、まちのにぎわいや活性化につながっていくと考えています。そこで昨年、小田急全線や箱根の交通機関などが乗り放題となる外国人向けの周遊券を発売しました。ぜひ本厚木駅でも途中下車して、厚木の魅力を堪能してもらいたいと思っています。

**市長** 外国人の皆さんにもぜひ、温泉や名物「厚木シロコロ・ホルモン」などを味わってほしいですね。

### ■ まちの活性化に鉄道の発展

**市長** そして星野さん、ニュースで拝見しましたが、今年はいよいよ複々線化が実現するそうですね。

**星野** そうなんです。ラッシュ時間帯の混雑の緩和と移動時間の短縮を目的に始まった複々線化が、最終段階である下北沢地区(東北沢)世田谷代田間(16.0km)の地下2層4線構造の工事に入っており、今年3月、ついに代々木上原と登戸間で複々線化します。

**市長** 複々線化は私たちの生活にどのような効果をもたらすのでしょうか。

**星野** はい。3月17日にダイヤ改正を行い、「混雑の緩和」「所要時間の短縮」「都心方面へのダイレクトアクセス」「座って快適通勤」が実現します(左欄参照)。「混雑」で、遅い小田急線「を脱却し、新しい小田急線として新たなスタートを迎えます」。

**市長** それは朗報ですね。都心へのアクセスがより早く快適になれば、本厚木駅はもろもろ県央地域全体の活性化につながっていくと思います。

**星野** 小田急線は、厚木市をはじめとする沿線の中核となる都市の活力を支えられています。まちの活性化と鉄道の発展は表裏一体。これからも厚木市と協力して、まちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

**市長** 本市がこれまで発展できたのは、小田急があったからこそです。市民の皆さんがさらに便利に、暮らしやすく、活気あふれるまちになるよう、今後も連携・協働してまちづくりに取り組んでいきましょう。星野社長、本日はどうもありがとうございました。



本厚木駅の移り変わり

## 地域づくりに長年貢献

### 市自治会連絡協議会が総務大臣表彰を受賞



市長に受賞を報告(前列右2番目が神保さん)

市長は「地域での地道な活動が実を結んだ」と笑顔を見せていました。

地域活動の中心的な役割を担う厚木市自治会連絡協議会が11月、地域への貢献をたたえる「地方自治功労者」に選ばれ、総務大臣から表彰を受けました。

表彰は、地方自治法の施行70周年を記念して実施され、住みよい地域づくりに貢献した全国の個人261人と245団体が選ばれました。同協議会の受賞は、地域の声をまちづくりに反映させる「自治会長と市長とのまちづくりフリートーク」や、安心・安全なまちをつくる「セーフコミュニティ」の活動など、市と協働してまちづくりを進める取り組みが評価されたものです。

会長の神保忠男さんは「地域での地道な活動が実を結んだ」と笑顔を見せていました。

## 酒井地区のまちづくりが始動

### 業務代行予定者が決定

相川地区に新たな産業拠点を作るため、酒井土地区画整理組合設立準備委員会(毛利澄夫会長)が11月、戸田建設株式会社首都圏土木支店と株式会社明治の2社と事業運営に関する基本協定を結びました。



権利者・企業・行政が互いに協力を約束

事業エリアは、酒井・下津古久・愛甲の一部地区を合わせた約27ha。今年開設を予定する新東名高速道路・厚木南インターチェンジの近くとあって、さらなる交通網の拡大が期待される地域です。平成30年度に事業の実施主体となる組合を設立するのを皮切りに、31年度に工事着工、36年度の完成を目指します。市は権利者や企業と三位一体となつて、事業の円滑な進行を支援していきます。



## 交通事故撲滅を宣言

### 交通安全市民総ぐるみ大会を開催

市内では11月末時点で930件の交通事故が発生し、6人が亡くなっています。事故件数が前年同月比で61件増えており、交通安全意識の向上が求められています。



市民の力を合わせて交通安全に取り組むことを宣言

12月、市内で交通事故が増加する中、市民らが交通安全の意識を高める「交通安全市民総ぐるみ大会」が文化会館で開催されました。参加者約350人が、自ら交通安全活動の実践者になることを誓うとともに、交通事故の撲滅に向け、まい進することを決議。この他大会では、児童の登下校時の交通安全指導などに尽力した24人が表彰され、道路の横断旗などを寄付した4団体には感謝状が贈られました。

## あつぎっ子が健脚競う

### ちびっこマラソン&駅伝競走大会を開催

12月、「ちびっこマラソン&駅伝競走大会」が荻野運動公園で開催され、市内の小学生約600人が力いっぱい駆け抜けました。

大会では、個人で競うマラソンとチームで競う駅伝の2種目を学年・性別ごとに実施。親子2人1組で走る部門も設けられました。当日は、各部門の1位〜3位に入賞した18人3団体の選手に賞が贈られました。



号砲の合図とともにスタートを切る子どもたち

1キ小学1年生親子の部で優勝した鶴田寛人さん(7・妻田南)は「お父さんと一緒に優勝できて良かった」と笑顔。一緒に走った洋祐さん(41)は「練習より速いタイムが出せたのでうれしい」と喜びをかみしめていました。

## ATSUGI X NEW ZEALAND ホストタウン通信



### ニュージーランド NZの高校生の留学を受け入れ

12月1日~13日、市はNZ・ダニーデン市のキングスハイスクールで日本語を学ぶ15人の生徒を受け入れました。

市内の大学生と百人一首をする留学生

市が同校の生徒を受け入れたのは今回が初めて。滞在中、生徒たちに多くの日本文化に触れてもらおうと、6日間のホームステイをはじめ、学校での授業体験や伝統芸能の鑑賞などを企画しました。生徒たちは市内の大学で日本の歌やダンスに触れたり、相模里神楽を鑑賞したりと、行く先々で体験や交流を楽しんでいました。

東京五輪の開催まであと2年。3月には市内の高校生らがダニーデン市にあるオタゴ工科大学へ体験留学するプログラム「FLY TO NZ Project」の実施を予定するなど、今年も市ではNZとの交流事業に力を入れていきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業などを紹介します。

**チャレンジする議会へ**  
厚木市議会議長 難波達哉

市民の皆さま、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から、議会運営に對しましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、地方分権の進展により、市民の皆さまに最も身近な議会として、市議会の果たすべき役割はますます重要なものとなってきております。

厚木市議会では、かねてより議会改革を進めており、通年会期制の導入をはじめ議会基本条例の策定などに取り組んでまいりました。平成29年10月に

市民の皆さま、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から、議会運営に對しましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、地方分権の進展により、市民の皆さまに最も身近な議会として、市議会の果たすべき役割はますます重要なものとなってきております。

厚木市議会では、かねてより議会改革を進めており、通年会期制の導入をはじめ議会基本条例の策定などに取り組んでまいりました。平成29年10月に

このように厚木市議会では、市民の皆さまの思いをしっかりと受け止めた上で、より開かれた議会の実現を目指して議会改革をさらに進めてまいります。そして、市執行部と互いに知恵を出し合いながら、安心安全で活力と思いやりのあるより豊かな地域社会の実現に全力を尽くしてまいりますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとつてより実り多き年になりますとともに、皆さまのご健勝を祈念いたします。年頭のごあいさついたします。

も新たに「決算審査の実施方法」など5項目を議会運営委員会に諮問し、現在、検討を進めているところです。

また、今年で7年目を迎える議会報告会では、特に市民の皆さまや市内各種団体の皆さまとの意見交換に重きを置いてまいります。今年も実施する予定ですので、ぜひお越しいただきたいと思っております。

# タウンガイド

1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	4	5	6	7	8	9	10
7	8	9	10	11	12	13	11	12	13	14	15	16	17
14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	21	22	23	24
21	22	23	24	25	26	27	25	26	27	28			
28	29	30	31										

**マイタウンクラブ**  
 〇印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「〇」と記されたものは、申し込みもできます。  
 〇=申し込み 〇=問い合わせ  
 ☎=電話番号 〇=ファクス番号  
 〇=Eメール 〇=市ホームページ  
 〇=GENKI ポイント対象事業

## 成人式「はたちのつどい」 Go your way ~咲き誇れ未来へ~

1月8日、11時~12時(10時15分~受け付け)。文化会館。式典やビデオレター、音楽ライブなど。新成人には11月中に招待状を郵送済み。  
 ☎青少年課225-2580。◎1



## 食生活改善推進員 育成研修会

2月6日、10時~14時。あつぎ市民交流プラザ。日本料理店の総料理長から調理の技術や知識を学ぶ。食生活改善推進員養成講座修了証を持つ市内在住の方28人。550円。  
 〇1月24日までに健康づくり課☎225-2201へ。抽選。◎10

## 眠りを変えて元気アップ! 睡眠虎の巻

2月①1日②13日、14時~15時30分。①小鮎公民館②南毛利公民館。保健師による睡眠の質を改善する方法の講義とアロマスプレー作り。ゲートキーパー養成講座と骨健康度測定も同時開催。市内在住の方各30人。無料。〇1月4日から健康づくり課☎225-2201へ。先着順。◎10

## あそぼう!まなぼう! まめの木タイム

1月17日、11時~12時。中依知児童館。「秘伝!手遊びの秘密☆親子で楽しむ遊びの時間」をテーマに、保育士から子どもの発達を促す遊びを学ぶ。定員30人。無料。〇当日直接会場へ(駐車場はありません)。先着順。☎療育相談センター

☎225-2252。◎1

## 児童館合唱団発表会

1月21日、14時~16時30分(13時30分開場)。文化会館。子どもたちによるミュージカルの発表など。定員300人。無料。〇当日直接会場へ。先着順。☎青少年課☎225-2581。◎1

## あつぎ青春劇場

①1月13日、13時~15時30分。あつぎ市民交流プラザ。新春ライブ。定員150人。無料②2月3日、15時~16時。アミューあつぎ。唄う!青春劇場カラオケ大会(ゲスト・立花伸一)。定員100人。500円③2月24日、11時~12時30分。アミューあつぎ。あつぎ青春劇場落語会(出演・柳亭市童)。定員100人。500円。

いずれも申し込みは、当日直接会場へ。先着順。☎商業にぎわい課☎225-2834。◎1

## みんなの声で つくるまち

市では次の内容について、皆さんの意見をお聞かせください。

### 《パブリックコメント》

#### ◆環境基本条例の改正

資料を一部修正し、閲覧・応募期間を延長します。《閲覧期間》1月11日まで。☎〒243-8511環境政策課☎225-2746・☎223-1668・☎3100@city.atsugi.kanagawa.jp

#### ■都市農業振興計画の策定

《閲覧期間》1月4日~2月3日。☎〒243-8511農業政策課☎225-2800・☎223-0174・☎3600@city.atsugi.kanagawa.jp

#### ■災害廃棄物処理計画の策定

《閲覧期間》1月4日~2月3日。☎〒243-8511環境政策課☎225-2749・☎223-1668・☎3100@city.atsugi.kanagawa.jp

いずれも閲覧場所は、各課窓口、市政情報コーナー、各地区市民センター、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、☎。応募方法は閲覧場所にある用紙で確認。

# 市民リポーター募集



モデル

カメラマン

リポーター

まちの話題や市のお知らせなどをお茶の間に届ける市民リポーターを募集します。番組リポーターやカメラマンになって、あなたの目線で厚木の魅力を伝えてみませんか。☎広報課☎225-2040

## 応募要領

《対象》市内在住働在学の18歳以上20人程度(経験の有無は問いません)《任期》4月1日から2年間  
 〇市販の履歴書に必要事項(志望動機必須)と優先したい活動内容(下欄参照)を書き、2月8日(必着)までに直接または郵送で〒243-8511広報課へ。書類選考後、オーディション(2月18日実施)の詳細などを通知します。

## 活動内容

- ◆リポーター=市の取り組みや市民の活動、イベントの様態などを紹介する市の広報番組「あつぎ元気Wave\*」でのレポート  
 ※ケーブルテレビ(あゆチャンネル)や☎で放映
- ◆モデル=広報紙やガイドブックなどの写真モデル
- ◆カメラマン=行事や風景の撮影(写真・映像)  
 いずれも時間や内容に応じた報酬あり(2000円~5000円)



# 新春恒例 消防出初め式



伝統の妙技「はしご乗り」

《日時》1月7日(日)  
10時~12時15分

《会場》荻野運動公園  
 ※荒天時は屋内で実施

《内容》古式消防保存会によるまとい振り込み、はしご乗り、市内事業所・消防団による消火演技、消防部隊などによる消防演技、一斉放水など。

※当日は7時にサイレンが鳴ります。火災とお間違いのないようお願いします。

〇当日直接会場へ。◎1

☎警防課☎223-9368

## ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



厚木市 インターネットモニター 検索

## 12月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆障がい者と健常者が当たり前交流を持つ社会になるよう、障がいへの理解が進んでほしいと思った/30代女性◆思った以上に障がいについて知らないことを反省した。どういう行動を心掛けたら良いか学ぶことができた/70代女性◆スマートフォンで危険箇所を伝えられるのは手軽で良い/40代男性◆完成した市立病院のように、最新医療機器を備えた病院が身近にあると安心して暮らせる/50代女性

## 編集後記

熱気人の取材でBMXの試合を初めて観戦しました。コース脇での撮影は、選手の息遣いやペダルを踏み込むときの自転車がきしむ音が聞こえ迫力満点。すり鉢状のカーブで体を内側に傾けて走る姿やジャンプでこぶを飛び越える様子に圧倒されながら、必死でシャッターを切りました。小・中学生も多く出場していて、この中に未来のオリンピック選手がいるのかなと思うと、東京五輪で注目したい競技の一つとなりました/伊藤

# 共働き子育てしやすい街ランキング2017

# 全国6位 県内1位

※東京都を除く



日経DUALと日本経済新聞社が実施した子育てに関する調査(右下欄参照)の結果、厚木市が「子育てしながら働きやすい都市」として前回の全国11位から順位を上げ、全国6位を獲得しました。子育て環境日本一を目指し、市では、誰もが安心して子どもを産み、育てられる環境づくりを進めています。

## 保育環境を充実

## 市の子育て支援



子どもを一時的に預かる「一時預かり保育」を市内24の保育所で実施。市内で働く保育士に、奨学金の返済と市内への転入費用を一部助成

### 医療費助成



中学生までの医療費を全額助成

### 働く保護者をサポート



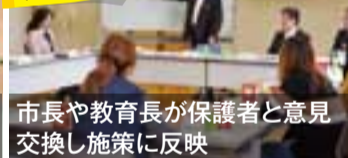
全23小学校区に設置する「放課後児童クラブ」

### 相談体制を充実



子どもの遊び場や子育ての相談窓口として利用できる「もみじの手」

### 保護者と対話



市長や教育長が保護者と意見交換し施策に反映

### どんな調査?

調査では、12の評価項目を基に、共働きをする際に必要となる各自治体の施設やサービスの充実度を評価。対象は全国148市町村です。

### 主な評価ポイント

- 保育所の入所率
- 学童保育の充実度
- 教育や医療、保育にかかる費用の助成やサービスの充実度
- 保育や教育に必要な施設や人員が整備されているか



共働きなので放課後児童クラブを利用しています。遊びだけでなくおやつや宿題の時間もあるので、助かっています。

おさだ ゆい 長田 由衣さん (38・元町)

2人目からの紙おむつの支給や中学生までの医療費の助成など、子育てに手厚いサービスが多いのが魅力です。

こうま ゆき 小馬 有紀さん (28・戸室)



### 今後もさらに充実

- 2月 小規模保育施設を増設
- 3月 子どもが病気の際にも預けられる病児保育がスタート
- 4月 一部の認定こども園で1・2歳児の保育がスタート、認可保育所を増設

問 子育て課 ☎225-2262

## 自然歳時記

### サネカズラ

マツバサ科

雌雄異株のツル性植物で、雌株には秋から冬に赤い集合果がよく見られる。茎や葉の粘液を整髪料に利用したことから別名ピナンカズラともいう。／七沢の里山で見つけた。

写真・文 / 吉田文雄



冬の雑木林は、木々の葉が落葉し見通しが良い。見上げるとツルウメモドキの赤い実が青空に映え美しい。やぶの向こうに赤い実が見えたので、もしやと思い近づくと、やはりサネカズラだった。鳥に食べられたのか匂を過ぎたのか分からないが、3割ほどの集合果に実は少なかった。以前、この実の中に勾玉状の種子を見

つけた子どもがいたのを思い出し、一粒つぶすとクリーム色の種が出てきた。探してみると、30~40粒が完璧にそろった集合果が午後の光の中で美しく輝いていて、疲れた身体を癒やしてくれた。よく見ると、ガガンボの仲間が止まってその汁を吸っていた。生き物たちが持ちつ持たれつしながら今を生きていることに感動した。

厚木市の人口 (12月1日現在)

世帯数

9万8354世帯 (前月比138世帯増)

人口

22万5879人 (前月比131人増) 男11万6763人・女10万9116人